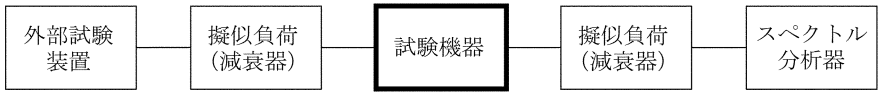
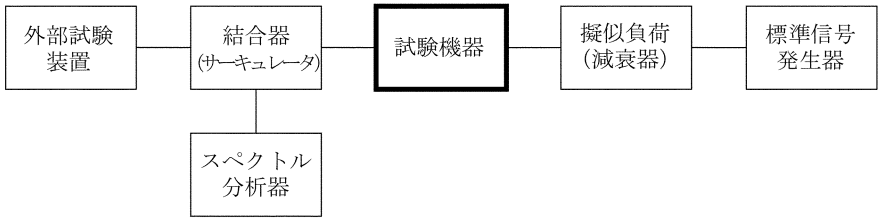
⑵　擬似負荷の代用として、方向性結合器を使用することができる。
⑶　空中線電力が飽和していることを示すデータは、３点以上の測定データにおいて、少なくとも空中線電力が最大となる入力レベルの時の測定データに加えて、その前後の入力レベルでの測定データを含むものとする。
⑷　過大入力レベルに対し、送信を停止する機能を有する試験機器の場合は、送信を停止する直前の状態の入出力電力の結果を添付する。
⑸　陸上移動局対向器の空中線の絶対利得（給電線損失等を含まない送信空中線の絶対利得。以下同じ。）が、０dBiを超える場合の空中線電力の許容値は次式のとおり。
　空中線電力（dBm）＝24.0dBm－空中線絶対利得（dBi）
⑹　複数の空中線を用いる場合の空中線電力は、個々の空中線電力の値を加算する。
⑺　⑹において、陸上移動局対向器の空中線絶対利得が０dBiを超える場合の空中線電力の許容値の算出方法は次のとおり。
ア　各空中線ごとの等価等方輻射電力を求める。
イ　等価等方輻射電力（dBm）＝空中線電力（dBm）＋空中線絶対利得（dBi）
ウ　空中線１からｎまでの等価等方輻射電力を真数で加算した値が24.0dBmを超えない空中線電力。
⑻　複数の空中線を用いる場合の空中線絶対利得は、個々の空中線の電力及び位相を制御することによって空中線の指向特性を制御するものとして動作させる場合は、空中線の絶対利得を加算（真数で加算）した値を合成した空中線絶対利得として用いる。
⑼　⑻において、陸上移動局対向器の合成した空中線絶対利得が０dBiを超える場合の空中線電力の許容値は次式のとおり。
　空中線電力の総和（dBm㎜）＝24.0dBm－合成した空中線絶対利得（dBi）
⑽　試験機器において、空中線電力の総和は、発射可能な周波数帯が700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯及び２GHz帯の周波数帯を使用する場合は、全ての周波数帯の空中線電力を合計した値が40mW（上り）以下及び250mW（下り）以下である。

十一　副次的に発する電波等の限度
１　測定系統図
　第一の十の項の１に同じ。
２　測定器の条件等
　第一の十の項の２に同じ。
３　試験機器の状態
　第一の十の項の３に同じ。
４　測定操作手順
　第一の十の項の４に同じ。ただし、複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子において測定する。
５　試験結果の記載方法
⑴　結果は、許容値の帯域ごとに振幅の最大値の１波又は必要な複数波をdBm／100kHz単位又はdBm／MHz単位で、レベルの降順に並べ周波数とともに記載する。
⑵　複数の空中線端子を有する場合は、それぞれの空中線端子の測定値において各周波数ごとにおける総和を⑴の単位で周波数とともに記載するほか、それぞれの空中線端子ごとに最大の１波を⑴の単位で周波数とともに記載する。
６　その他の条件
　第一の十の項の６に同じ。

十二　総合動作特性
１　測定系統図
（下り）



（上り）



２　測定器の条件等
　外部試験装置は擬似的に基地局信号を送信可能な装置であって、試験機器の動作を制御する信号（以下「制御信号」という。）を送信できるものとする。
３　試験機器の状態
⑴　試験機器の制御信号を受信可能な状態（運用状態）にする。
⑵　試験機器の利得（増幅度）が可変できるものにあっては、複数の利得に設定できる試験機器の場合に最大となる利得に設定する。
４　測定操作手順
⑴　下り
ア　外部試験装置から試験機器の下り信号及び中継機能を動作させる制御信号を出力し、スペクトル分析器で下り信号が送信されていることを確認する。
イ　外部試験装置から試験機器の下り信号を出力した状態で中継機能を動作させる制御信号を停止し、スペクトル分析器で下り信号が送信されていない（試験周波数帯域内において、試験機器の入出力給電点間の利得が０dB以下）ことを確認する。
⑵　上り
ア　標準信号発生器から試験機器の上り信号を出力する。
イ　外部試験装置から中継機能を動作させる制御信号を出力し、スペクトル分析器で上り信号が送信されていることを確認する。
ウ　外部試験装置からの中継機能を動作させる制御信号を停止し、スペクトル分析器で上り信号が送信されていない（試験周波数帯域内において、試験機器の入出力給電点間の利得が０dB以下）ことを確認する。
５　試験結果の記載方法
⑴　「良（又は否）」で記載する。
⑵　事業者固有の識別符号、事業者特有の信号又は試験機器を遠隔制御する信号のいずれを用いたかを記載する。
⑶　⑵で用いた制御信号について、外部試験装置が通信を行った携帯無線通信方式を記載する。
６　その他の条件
⑴　２において、外部試験装置が試験機器の下りＲＦ信号を出力した状態で中継機能を動作させる制御信号のみオン、オフできない場合は、試験機器の下りＲＦ信号を出力できる標準信号発生器と信号を合成することができる。